

06. 「人生観」が変わりました

遠藤玲子 58歳 デザイナー 台東区在住

- どこに誰といましたか。

台東区台東のオフィスに1人でいました。揺れと同時に入口のドアを開け、閉まらないように押えていました。30年以上経つ古いビルの9階です。オフィスの中の低い位置にあった書類は滅茶苦茶に床に散乱しましたが、高い位置のパソコンなど機器類は何故か大丈夫でした。揺れはじめに、1人で留守番をしている85歳の父親に固定電話をかけました。揺れている最中でしたが、電話は通じてお互い安心しました。揺れが収まった後、同僚が戻り社内に散乱したモノを片付けました。その後わかったことですが、PCメールやダイヤル式の黒電話はつながっていたのです。今から考えると、1人でいたからいろいろ考える時間があつたのだと思います。揺れている最中に、何をしたら良いのか、究極の選択を考えたりして冷静でいられました。

- どのように自宅に帰りましたか。自宅では何か起こっていましたか。

明日からのしごとのために、PC内の仕事や重要な書類をバックアップして、20時ごろオフィスを出て、徒歩30分の自宅に帰りました。鉄筋3階建の自宅は無事でした。関東大震災の経験のある亡き祖父から、「モノにこだわるな」、「暗いと危ないから寝る部屋にモノを置くな」と、子供のときから口うるさく言われていた事をまさに体感しました。亡き母は何時か亡くなることを考えて、余分なモノはすべて処分していたのです。数枚の葬式用の写真と、私がプレゼントしたワンピース数点のみ残してありました。「いつも何かあつた時に」という潔い生き方に学ぶものがあります。

- 最後にひとこと。

今回の地震で人生観が変わりました。祖父や母の言っていたこと・したことが、いかに納得のいくものかがわかりました。「将来への不安から、モノに執着し、保存する事は考えない。」に変わりました。何処でも身軽に対応出来る様に、いつもシンプルな生活に切り替えスッキリしています。いまは、急な災害に備え、バッグには現金と懐中電灯と笛をもち、職場には下着類とスニーカーを用意してあります。

2011年6月17日